



全生徒で独自の体験が目標となっている東大附属中。東京都立大で、西本勝彦

受験で燃え尽き、校風なじめず...

私立中退学 どう対応

私立中に進学する生徒が増える一方、入学した学校になじめず退学してしまふ子どもたちが少なからずいる。最新の統計は公表されていないが、中退者は増加傾向にあるという。関係者は対応を求められている。受験して入学した学校から、なぜドロップアウトしてしまうのか。退学した子どもたちは、どこへ行くのか。【山本和子】

「とにかく私立へ」と親から受験を勧められた子どもが、塾通いで志望校に入学したものの、解放感で勉強が手につかず成績が悪化し、結局肩たたきにあい退学……。私立中受験の実情に詳しい森上教育研究所の森上屋安所長は、受験疲れによるバーンアウト(燃え尽き)現象

の典型的なパターンをこう説明する。また、東大合格者を出すような進学校では、赤点続きたと退学を促されることが珍しくない。非行や暴力事件を起こして退学処分になる生徒もいる。受験は「合格したら終わり」で

校協会に申し入れたが、私立側は「必要とされる場合に限って転学している」と反論。両者の関係はぎくしゃくし、以来、統計を公表しない紳士協定が出来上がった。現在、最新の統計は非公表だが、「退学して公立に

公立中と連携必要 ■ 志望校選び 動機明確に

公立中の校風でつくる東京都中学校長会が05年に発表した調査では、私立中から公立への転入者は02年度が259人(入学者の0.35%)、03年度331人(0.45%)、04年度は年度途中で359人(0.48%)と2年連続で増えた。同校

転入する生徒は、傾向として増えている(都中学校長会)という。また、不登校や非行がからんでいる公立中の教師も少なくない。退学の原因が勉強についていけなかったからなのか、いじめだったのか、私

*

私立中を退学した生徒にとって、地元の公立中は戻りづらい。退学者の中には、他学区の公立中や別の私立中に転校したり、高校受験まで中学に通わず、自宅にこもってしまうケースもある。教員研修センターの藤沢千代

「成績悪化や非行不登校で退学させる」とは「成り上がり」の一種だ。休みの時間はトラップやペーパーもでき、生徒は高校卒業時に長い論文を書く。単位にならず評価対象でもないが、書かなかった生徒はいない。田村哲夫校長は語る。「自由だからこそ、やる気が出るのです」

温かい目で受け止めるべきだ。励ます大人がいれば、子どもはやる気を取り戻し立ち直る。保護者も、公立に戻ったことを挫折と捉えず見守ることが大切」と語る。

*

退学につながるなら、志望校選びも重要だ。教育評論家の小宮山博仁さんは「確たる目的意識がないままの受験は挫折しやすい」と指摘する。私立中の校風は個性が強いので、「親子で文化祭や公開授業を見て研究し、その私立に進みたい積極的な理由を見つけることが大切だ」という。

私立中も新入生を学校になじませようと、さまざまな試みをしている。東大附属中(東京都豊島区)は、入学前の2月、新入生を集め英語の宿題を出す。「受験勉強で得たのは知識ではなく、勉強癖。机に向かう習慣を身につけてほしい」と堀

内不二夫校長は語る。子どもたちはできる子に囲まれ、今までは「お山の大将」にすぎなかったことを悟る。進級基準に達しなければ落第する。1学年では到達度を確かめる小テストをひんぱんに行う。

まめにテスト、友達づくり...

新入生支援 試みさまざま

足立学園中学校(足立区)もまめに学力確認テストを行い、合格点に達しない生徒が再テストで午後8時まで居残ることもある。友達とのきずなづくりにも力を入れ、入学後の最初の1ヶ月は弁当持参で班ごとに昼食を取り、約30分を全校生徒で歩きぬぐ大会を開いている。「成績悪化や非行不登校で退学させる」とは「成り上がり」の一種だ。休みの時間はトラップやペーパーもでき、生徒は高校卒業時に長い論文を書く。単位にならず評価対象でもないが、書かなかった生徒はいない。田村哲夫校長は語る。「自由だからこそ、やる気が出るのです」

第1志望に入れず、仕方なく入った第2志望、第3志望の学校でやる気をつく子もいる。森上教育研究所の森上所長は「併願校選びも大切。第2志望校からきっちり選ぶ覚悟が必要」と呼びかける。中学入学後は「得意なクラブ活動に参加するなど居場所を見つけ、適応する努力が必要。親も担任とこまめに連絡を取るなど、フォローすべきだ」(森上所長)とアドバイスする。